講義名	教育社会学【教職科目】					授業形態	
担当教員	池田　曜子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	TTC201

主題と概要

教育社会学の代表的な理論および方法論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら、解説します。
特に、教育社会学の理論と学校組織、教育環境との連関に焦点を絞ることによって、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を構想していくことができるのかにも目を向けていきます。
また、単なる知識伝達の講義形式にとどまらず、受講者が積極的に小発表・調査レポート・議論に参画することによって、教育学および社会学の研究・発表手法を多角的に学ぶことに力点をおきます。

到達目標

１．社会学の基本的な理論を理解できるようになる
２．現在の、教育問題について、社会学的な観点から議論できるようになる
３．学んだ知識を自分の日常生活に当てはめて考えることができるようになる

提出課題

授業後、毎回課題を提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各授業時に提出していただいた課題内容の共有すべき内容や質問については、次週の授業の初めにフィードバックを行います。

評価の基準

課題（25%）
授業内での発表（15%）
最終試験（60%）

履修にあたっての注意・助言他

授業の内容に関連のある時事問題にも興味を持ち、積極的に情報を収集してください。
欠席すると、理解が難しくなります。遅刻、欠席に注意してください。

教科書

・使用しない.				

参考図書

・なし.				

その他

講義連絡にて、資料を配布する。

授業計画

第１回：教育社会学とはどんな学問か
第２回：教育社会学の理論：デュルケム・ウェーバー、パーンスティン・ブルデュー
第３回：教育と選抜
第４回：社会化と配分
第５回：学校組織理論と生徒の分化
第６回：教師のストラテジーとしての教育行為
第７回：教室秩序の社会的構成
第８回：階級と文化（１）：階級、エスニシティと文化
第９回：階級と文化（２）：日本の階層
第１０回：教育問題（１）：逸脱理論
第１１回：教育問題（２）：私事化社会
第１２回：地域との連携（１）：学校教育活動の意義
第１３回：地域との連携（２）：これまでの学校づくりと今後の学校のありかた
第１４回： 安全・危機管理
第１５回：まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業で必要な資料を配付し説明を行います。
この資料を次週の授業までに熟読し、理解できない部分を明確にし、分からなかった部分について質問ができるようにしておいてください。（2時間）
さらに、授業で取り扱った内容は、授業後、課題作成の際に配布資料をもとに復習し、自己の理解程度を再確認しておくことが必要です。不明点は、次回授業時に質問してください。（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

商学部マーケティング学科では、企業環境をマーケティングの視点で捉え、現状を改変する努力を持続することができる学生を育てます。
本授業でも、自ら考え、自ら判断し、主体的に行動することが求められます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業は実施しない。

実務経験の有無及び活用

備考